

NPOパワーアップ補助金事業成果報告会 資料

	団体名	NPO 法人こばてい - 子ども参画イニシア ティブ	
	代表者名	理事長 小熊 浩典	
	所在地	松戸市常盤平 2-9-5 長谷川ビル 301	
1 事業名	だいすき松戸!子どもフェスティバル		
2 事業費	543,839 円	(このうち県の支出	271,919 円)
3 事業期間	2008年7月～2009年2月		
4 事業の目的	子ども・家族に対して、子どもに向けた活動をしている人々との出会いを生み出す イベントという一過性の関係で終わるのではなく、身近な場として行けるような、継続性を生み出す。		
5 事業概要	行政・学校・NPO・地域活動団体など、子どもたちを取り巻く人々が、ひとつのイベントをつくっていくなかで、セクターとして連携を深め、また地域への情報発信の場を広げる。		
6 事業経過	<p>8/4 第1回実行委員会(青少年会館) 6名 実行委員の増加促進と準備開始 終了後、第1回 NPO 部会 子ども NPO ネットワークの構想</p> <p>8/27 第1回ゲームリーダー部会(事務所) 7名 全体あそびの素案出し</p> <p>9/6 第2回実行委員会(青少年会館) 6名 準備の進捗確認</p> <p>9/17 第2回ゲームリーダー部会(事務所) 7名 全体あそびの決定</p> <p>10/1 第3回ゲームリーダー部会(事務所) 7名 全体あそびの決定</p> <p>10/4 第3回実行委員会(青少年会館) 6名 ゲームの報告と協賛進捗確認/リーフレットを事業後に発行したほうが良いと提案があり合意決定</p> <p>10/15 第4回ゲームリーダー部会(事務所) 7名 全体あそびの決定</p> <p>10/27 第5回ゲームリーダー部会(事務所) 5名 全体あそびの決定</p> <p>10/29 第6回ゲームリーダー部会(事務所) 7名 全体あそびの決定</p> <p>11/2 第4回実行委員会(青少年会館) 6名 当日に向けた中身の確認</p> <p>11/2 第2回 NPO 部会(青少年会館) 6名 当日の各団体との連携確認と、事後の方針の検討</p> <p>11/8 第5回実行委員会(青少年会館) 7名 フェスティバル前日準備</p> <p>11/9 子どもフェスティバル開催(金ヶ作公園)</p> <p>11/27 第6回実行委員会(青少年会館) 6名 当日の報告と報告書の作成について</p> <p>12/1 第7回ゲームリーダー部会(事務所) 当日のふりかえりと報告書の発送</p> <p>12/4 第3回 NPO 部会(青少年会館) フェスティバルでできたネットワークの確認と今後の展開 報告会の開催に関して、商店主の参加が難しいという意見があり、委員による協賛者への個別訪問に変更。</p> <p>1/22 第7回実行委員会(事務所) 6名 事業成果の評価と報告について</p> <p>2/21 第8回実行委員会(事務所) 6名 今後の活動方針についての検討</p>		

<p>7 事業成果</p>	<p>1、目的；人々の出会いを生み出す 目標；情報発信の拡充による、参加者 500 名・ボランティア 150 名への増加と、協賛金拡充 本助成金の活用により、チラシのデザイン・増刷など、情報発信の拡充を行うことができた。 本年のボランティアデザインの遅れから印刷時期が若干遅れたため、例年より広報展開が後ろにずれたことだけでなく、メディアへの取り上げが例年に比較して少なかったことが、ボランティアの減少につながったと推定している。 一方で、数だけでなく、配布先についても市内高等学校への一般配布に加えて、市立高校ボランティア部との関係を構築、配布を依頼したため、そこからのボランティア参加につながったことは大きな成果だった。 協賛金の確保に関しては、当初目標 264,000 に対し 203,000 を達成した。例年の協賛金の状況からは大幅に伸びたため、当補助金を受けたことによる信頼性と動きをつくることが成果につながった。特に、企業協賛だけでなく、地元の学生スタッフを巻き込んだことでの地縁ネットワークから、企業としては出せなくても個人協賛という形での資金調達につながる成果もあった。</p> <p>2、目的；継続性を生み出す 目標；NPO・行政・学校・企業とのネットワーク拡大と、ボランティアと団体の継続関係構築 フェスティバルの実行委員会に関わる団体として、今回新たに 2 団体が加わり、当初想定を達成した。 広報資料を拡充したことで、新規の学校・企業との信頼関係を築くことができ、成果報告を個別に行うことで、信頼関係を築きつつある。 当日ボランティアが、その後各団体への活動へ継続して関わっていく想定に対しては、本年度は当日ボランティアに来たのが大学 1,2 年生よりも中学生・高校生の受験学年が多かったため、助成期間内のボランティア継続としては不活発だった。 しかし、当日開催後のボランティア交流会へは大半が参加し、これまでにないネットワークづくりを実現できたため、4 月以降今後の活動のアナウンスを継続的に行うことで当フェスティバルおよび各団体への参加につながる可能性は高い。</p>
<p>8 直面した課題と今後の展開</p>	<p>直面した課題 参加者数に関して、参加費ベース(午後からの参加は無料としている)で例年を大幅に下回る 110 名弱であった。数日間続いた最高気温 20 度の後に、9 日が最高気温が 13 度とぐっと気温が下がったこと、本番中も時折小雨が降ってきた中での開催となってしまったため、子ども連れの参加者の出足が大幅に減少したことが要因と考えられる。その中でも来た参加者の満足度は高かったが、目標に対しては達成度が低い結果となってしまった。 学生に対しての事務ノウハウの継承が困難という問題に直面した。団体としての組織力とともに、伝えるべき技術のノウハウを、事務面に関してもまとめていく必要を感じた。</p> <p>平成 21 年度以降の事業展開 本助成金を受けて出来た、地域間での団体間ネットワーク、および企業・学校との信頼関係を元に、地域の中でのコースによるボランティア活動の場及び、NPO 活動の広がりを実現するため、フェスティバルの開催を続けていけるよう検討している。 現に、いくつかフェスティバルの参加団体間での事業連携の模索もあり、フェスティバル外でも関係性が継続しているといえる。</p>

<p>9 補助金事業の感想等</p>	<p>今回、NPO 活動補助金を使うことで、より多くの人に知らせていく機会を届けることができました。</p> <p>団体の中に謝金を設けてスタッフを用意しながら、なかなか 100% の事務管理を発揮できなかった側面もありますが、一方で事務能力をどう伝えていくかを整理するきっかけになったと感じています。</p> <p>今後、より多くの団体に、自由度の高い本補助金を使って、目の前の課題を解決する活動から、より予防的、啓発的な未来への投資を考える事業まで、多様な活動をしてもらいたいと考えています。</p> <p>ありがとうございました。</p>
--------------------	--